

《気候変動×防災×ジェンダー》 協カスキルで拡げることができた連携の輪

2025. 1. 25

流山防災まちづくりプロジェクト：矢口輝美

流山防災まちづくりプロジェクトのあゆみ

2018年9月 パートナーシップ流山主催「女性防災リーダー養成講座」スタート

2019年4月 流山防災まちづくりプロジェクト（NBMP）設立

2020年～2022年 流山市民活動団体公益事業認定

2021年1月 命と暮らしを守る避難所運営ハンドブック策定

2021年10月 令和3年度あしたのまちくらしづくり活動賞 振興奨励賞受賞

2022年 オンラインシンポジウム「次世代に繋げる中学生の防災教育」

（地域みらいねっと：小山内氏 気仙沼市立階上中学校：大野先生）

2022年・2023年・2024年 ESD for 2030学び合いプロジェクト

（関東地方ESD活動支援センター）

「気候変動に適応した実践型防災教育」気候変動×地形×防災×男女共同参画

2024年度東京都中央区提案事業（女性防災リーダー養成講座）



ハンドブック



オンラインシンポジウム

私たちの団体と一緒に何か出来るかも！と思われる方、ぜひご連絡下さい。

誰ひとり取り残さない避難所づくり

自治会で避難所開設
訓練をしたい！

学校で避難所
開設訓練をしたい！



でも、なかなか機会がない・・・



2021年9月

協力のテクノロジーとの出会い

2021年12月

関東地方ESD活動支援センターとの出会い



私たちの活動は何を目的にしている、
どんな活動なら社会に波及効果を及
ぼすのか、何をすべきなのか

「気候変動×防災×ジェンダー」
誕生の瞬間！

認定NPO法人

NPOクラブNews Letter

(2021年9月のセミナーに
ついて紹介されています)

令和4年度→令和6年度 ESD2030学び合いプロジェクト(関東) ～気候変動による影響と対策に関する、学びと実践～

原因の理解 (地球規模) 気候変動(環境)



講師：
国立環境研究所
気候変動適応センター(CCCA)
吉川副センター長

地球温暖化の進行で雨の降り方が極端化すると…



↑ ↓ 吉川副センター長講演資料
出典) A-PLATイラスト素材集



気候変動による、水害リスクの増大について理解する。

原因の理解 (地域) 地形(地理)

地域固有の具体的な防災上の危険個所と、その理由を理解する

地域の地形の成り立ちを知る
(講師：流山市立博物館 学芸係長)



約6,000年前は年平均で今より1～2℃気温が高く、海面が今より2～4m高かった

縄文の遺跡は、水没しない場所に分伏している。



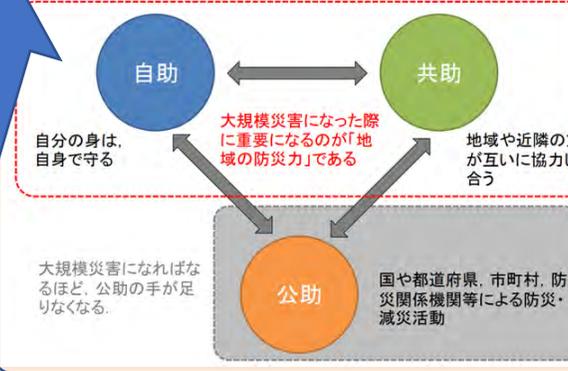
ハザードマップについて
(講師：流山市役所 防災危機管理課)
縄文時代に海だった場所は、現代においても水害リスクが高い。ハザードマップの解説をいただき、市内で水害リスクが高い場所がどこかを理解する。

身近な地域に潜む、水害リスクのある場所と、その理由を理解し、防災リテラシーの必要性を理解する。

これらの外部講師による講座や、体験、探究を通じて、気候変動の影響、地域の地形と危険な場所、避難所の運営などについて理解し、自ら考え行動できる人材を育成したい。

対処法の理解と実践 避難所開設訓練(防災)

流山の災害リスクを理解し、その上で、発災時にできることを、リアリティを持って体験する



グループワーク

自分が一連の学習を通じて学んだことを発表しあうことで《じぶんごと》になる



中学生が避難所運営に関わる意義



地域にとって中学生とは？

- ・**地元にいる可能性が高い**
- ・**地域の事を良く知っている**
- ・**知力・体力がある**



高校生～会社員
・**地元にはない**可能性が高い



お年寄り
・地元にいる可能性が高い
・地域の事を良く知っている
・**体力はない**



11.5
2030年までに、貧困層及び脆弱な立場にある人々の保護に焦点をあてながら、水関連災害などの災害による死者や被災者数を大幅に削減し、世界の国内総生産比で直接的経済損失を大幅に減らす。

SDGsの11.5を中心とした様々な項目の理解促進、課題解決の実践につながる

トレーニング次第で、地域防災の有力な担い手となり得る

避難所開設訓練の実施



- ・災害のメカニズムを知る
- ・避難所開設スキル
- ・サバイバルスキル（炊き出し、防寒等）
- ・弱者への対応スキル

地域にとってのメリット

- ・仕事や学校で地域外にいる事の多い大人に代わり、災害時の担い手の数を増やせる
- ・防災訓練を通じて、顔の見える関係を作ること、地域のレジリエンスの向上

中学生の「生きる力」の向上（教育的効果）

- ・単なる「学習」ではなく、リアルな役割を与えることで、自分ゴト化
- ・勉強が出来ない子にも、輝けるチャンスを与えることで、様々な特性の子ども自己肯定感の向上
- ・自律的に災害リスクに関して考えるスキルを身に着ける
- ・将来域外に越しても、どこでも使える「一生モノ」のスキルが身につく。
- ・リアルな体験を通じて、学習意欲の向上につながる。

**災害発生時に
中学校の避難所開設**



行政からの指示を待つだけでなく、自律的に防災リスクを判断し、自律的に行動できる力をつける事が最終目標

1. 目標開発フレームワーク

目的

女性の活躍の場を増やし、ジェンダー指数を上げる



問題

ジェンダー指数が低い。女性の活躍の場が少ない。

原因

人々のジェンダーに関する意識が低い

解決策（活動）

気候変動×防災×男女共同参画のプログラム普及により、日常生活の中にジェンダーの意識を取り入れる

目標

このプログラムを他団体でも実施することにより全国、世界で実施できるようにする

6. 相利評価表

関係者	問題(現状)	目的	目標/活動	役割	相利
NBMP	ジェンダーの視点が不足	性差別、性別による固定的役割分担、偏見等が社会的に作られたものであることを意識していこうとする視点のある社会	気候変動×防災×男女共同参画のプログラム普及により、日常生活の中にジェンダーの意識を取り入れる	多様性のある避難所開設プログラムの実施	ジェンダーの視点を持つ人が社会に増えていく
NPO法人パートナーシップながれやま	ジェンダーの視点が不足	様々な事業を通して、だれもがともに個性や能力を十分に発揮できる社会づくりに寄与すること		事業の実施	ジェンダーの視点を持つ人が社会に増えていく
男女共同参画室	ジェンダーの視点が不足	男女共同参画社会をつくるための計画の推進、事業の実施や啓発		広報	ジェンダーの視点を持つ人が社会に増える
防災危機管理課	住民に防災・減災の知識が不足している	住民が防災の知識を得ることで、行政の負担を減らす		NBMPと協力して自治会の理解を進める	住民が防災・減災の知識を得て、助け合いで行政の負担が減る
コミュニティ課	公益事業の成功事例が少ない	成功事例を増やす		NBMPの事例を成功事例としてPRする	公益事業の成果があることが証明できる

